



ALL FULL COLOR

maternity
fantastica

妊 娠
にんしん

ファンタステカ

HEXIVISION
ヘキシビジョン



R-18

FOR ADULT ONLY

Touhou Project "Bakuren Hiji" Fanbook

もしも妊婦になつた聖白蓮が性欲を
抑えきれなくなつてしまつたら：♡





んちゅ♡

ちゅの♡

がんばった旦那さまには
二ほっぴあげちゃいます

でも旦那さまを愛していますから
スキンシップの機会は増えました



お帰りなさいませ旦那さま…
今日もおつとめお疲れさまです

旦那さまとの子の妊娠して数ヶ月後…
妊娠がわかってからはこの子のことを
考えて…夫婦の営みはお休みしてます



むにゅ

ミュル

あっ♡

そして何度もキス以上の
愛撫される日を積み重ね



あっ♡

だっ…私…
すみっくっ

すぐに濡れてしまうエッチな体に
いつの間にか開発されていました

はあ♡



あっ♡

旦那さま…もう…
あんなに指…いやらしい…

ピク
ピク

んちゅ♡

やっ♡

しゅ♡

しゅ♡

しゅ♡

もう…おつとめ…
さらさらのお風呂もたまに



おちんちんじりじり震えて
オウイキキウなめなめかかっ

はあ♡

ズリュ

ズリュ

ピクッ

はっ♡



あつ♡

気持ちが高ると

今度は…旦那様が
気持ちよくなるまで

あつ♡

あつ♡

この体で奉仕して
あげたくります



だっ♡

いくらなり…お口にくださいー！
旦那様の子種飲みたいです

はっ♡

ずちゅちゅちゅちゅ

びゅ♡

びゅ♡

びゅ♡

びゅ♡

くっ…おちんちんを口に含ませたい
オウイキキウなめなめかかっ…



そして旦那様を想っただけで
淫らにお乳が出てしまいます

あつ♡

ニチッ

あつ♡

あつ♡

ニチッ

かたい♡



あーっ

あーっ
あーっ

ひゃん♡

どしゅ♡

あっ♡

どろろ

濃い♡

どろろ

ひゃあ♡

くっっ！射精が
おさまらない！

びゅっ
びゅっ
びゅっ

ゴッソ



どろろ♡

あっ♡

あーっ

すっ♡

にまい♡

「かな」私を「ベント」に「おた」たら
その「ま」になった「ちやい」やうですよ...

はあ♡

あつい♡

どろろ

ひゅ♡

大好き♡

旦那さま♡

妊娠中は今までこんなスキンシップを
するもの本番は我慢していました...
でも私の性欲は強くなるばかりでした



じゃあ早速おっぱいを
拝ませてもらおうかー!

はっ♡

が
バッ

はっ♡

し
ろ

ちゅぶ♡



回数も♡

ムニゅ♡

回数もめいめい
やっほーと聞かされたな

びしん

あん♡

ひゅ♡

もん♡

乳首ぼっかい
いじられたら

また...お乳が
出ちゃいます

むにゅ♡



おっぱいしゃぶられるだけで
またおまんこ濡れてきちゃう



もう旦那さまったら
赤ちゃんだいだいます



このまま寝て
行っちゃうかも...

おまんこ濡れちゃう
のかわいさで
味見しちゃって



お乳吸われぬの
気持ちいいやっ



ならもう邪魔なものは
全部脱いでしまおうか

せうすうかにおまんこ
ぐちゃ濡れちゃうが

だっっっっっしい旦那さま
聴らなれぬのやっ



ほあ♡

ビキッ
ビキッ



白濁がゴイゴイの回たう
ゴイゴイゴイキタメ



アーン♡

ぽん♡

とん♡

クイッ

んっ♡

もう我慢なんてできません...
私も欲しくなりました



んっ♡

キッ
キッ

かたい♡

こんなゴイゴイの回たう
期待しちゃうじゃないですか



ほあ♡

キッ
キッ

おれはゴイゴイの回たう
おれはゴイゴイの回たう

回たう♡

ぴらあ♡

したい♡

おれはゴイゴイの回たう...
おれはゴイゴイの回たう

きてっ♡

おねがい♡



ビュッ

あっ

あっ

おちんちんが濡れて
気持ちいい

いい

ビュッ



あっ

おちんちん
抜いちゃだめえ

にゅぽ

ひっ

もっとイカせてほしいのに
これじゃ物足りないです...



それに濃い味...

へっ

へっ

あ

やっぱりもっと
エッチしたい...



あっ

出っかたが
私に飲ませますから

ちゅる

あ...おちんちん...

へっ...

あっ

旦那さまのおちんちん
まだ元気がいいですね

ビュッ

ビュッ

じゃあおねだりしてもいいですか？



あっ♡

♡♡♡♡♡

キュン♡

かたい♡

エッチな白蓮も
大好きだよ



あああ♡

くはっ

生おちんちん
すっぴいおあい!

大きい♡

ズ
ズ
ツ

お待たがねの生チンポだー
たっぷり奪っちゃうわねよな



おねがい♡

しゅっ♡

んっ♡

旦那様の子種をいっぱい
おまねに注いでください

今度は生ハメ
してほしいの

ぎゅっ♡



はあ♡

旦那様♡

ガチガチおちんちんを
見せつけられてたらもう
我慢なんてできません

はやく♡

それごめーんな淫らな
噂はお嫌いですか...?

あん♡

ビキッ

ビキッ





イクッ♡

回数ナホ♡

子種いっほに注がわてせつ
おはよいびんぐんはなはる

イクッ
イクッ

おはらなたへんはなご
いかに取の種はたてちちね

いかにとヨナたたじ
敵わがぢやいおはー

イクッ♡



ビュッ♡

アツイのてん
おはらなたへん

あぁあ♡



どっひゅ♡

どっひゅ♡

うさ♡

あめ♡

あん♡

濃い♡

ビュッ



びゅるるる

おはらなたへんはなご
子種あつていっほに注がわてせつ

あめ♡

あめ♡

あめ♡

瞳内で飲みきれない分は
白濁の身体にかけてやる

イクッ

あめ♡



後日診察に行ったら異常もみられず問題ないそうです。これからも時々こうして旦那に可愛がっていただいても大丈夫とのこと...というわけでこれから先の新婚生活に旦那さまとするステキな楽しみが増えてよかったです。

大好き♡

旦那さま♡

今日はたくさん愛してもらえて幸せで一杯です

もしも妊婦になった聖白蓮がすごく
あなたを欲しがってしまったら：♡



旦那さまとの幸せな生活を送っていたある日のこと

ええっ!?

しばらくエッチは
お預けなんですか?



まさか私に
飽きて……っ?

ガーン



アモリまでも魔法で

赤ちゃんを保護しつ
つ エッチごたごたすすっ

アすから旦那さまが
すぐ認請しちやつて

エッチしたくなったら
言ってくたさいなっ



よかったー

ほっ



そのごめん
いらないや

アはアモリアモリ
準備をいたしますね

今夜は一杯精ごへ
アモリアモリアモリ

アモリアモリアモリ



確かに私は
妊娠つかぬ

私も無理なアモリ
ごたごた思ひます





そしてその日の深夜

あっ♡

ヌチュ♡

ヌチュ♡

ヌチュ♡

旦那さま♡

ソウ♡

イッ♡

旦那さまとエッチをお預けにしても毎晩のように体が発情しちゃう私は縁側でオナニーにふけていました

あん♡



あん♡

しゅ♡

しゅ♡

しゅ♡

あに♡

あに♡

イッ♡

ひゅ♡

旦那さま♡

イッ♡

キュッ♡



あああああー！
だんな様はあー！

♡

あん♡

あに♡

ひゅ♡

イッ♡

しゅ♡

あに♡

ビクビク

アッ♡

オナニーで達してしまいそうな時に旦那さまの視線を感じ殊更興奮してイっちゃいました



…でしたら私として
いただけませんかっ

もうエッチする準備
できていますから…

おねがい♡

旦那さま♡

はあ♡

ぴらっあ♡

旦那さまの乳房は
可憐で可愛らしいです



まったくおねだり
と手だな白蓮は

あん♡

あっこ♡

…んんん…

旦那さま…旦那さまの
乳房は可愛らしいです



そんなオレと
したかったのさっ

ニキミ

!!

そんな顔しないでいいぞ
旦那さまにはないんだ

ニキミ

むしろオレも拜
アキムにならないだ

女中♡



大団円♡

はっ♡

ぎゅっ♡

魔法で守っていますから大丈夫です
激しいエッチも大丈夫です



思い通りにしゃしゃりたてたい
赤ちゃんは大丈夫なのよ

ひっ♡

ぬぽっ♡

ミルク



はっ♡

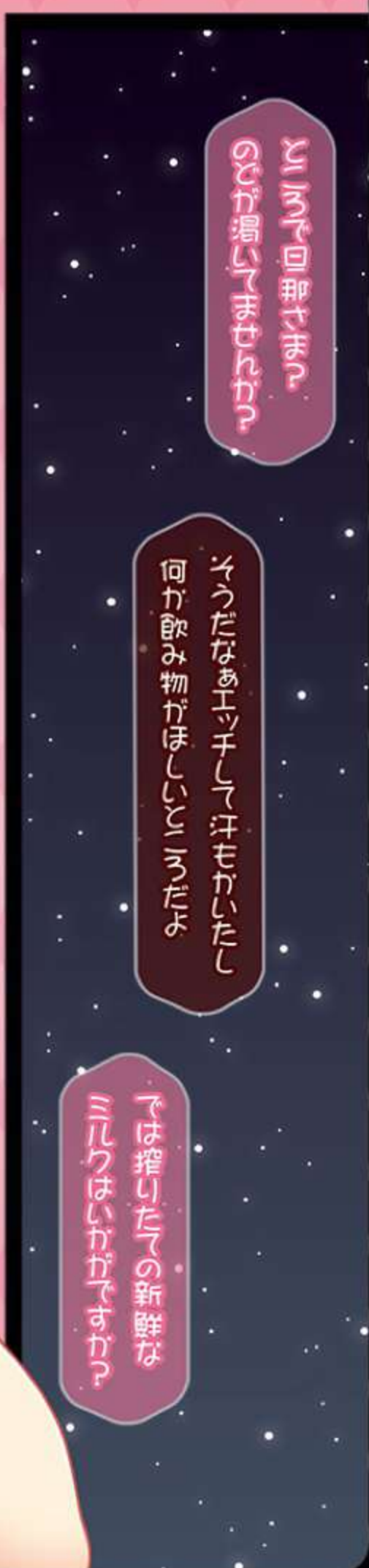
はっ♡

あ♡

回数はおまかせでいいですよ
いくらでも大丈夫ですよ

むじゅん♡

このあと何度も求められ愛の
営みは明け方まで続きました



ミルクと母乳を
合わせて飲む

そうだなあエッチして汗をかいたし
何か飲み物がほしいところだよ

では搾りたての新鮮な
ミルクはいかがですか？

聖白蓮との妊娠ラブライフ

文：きなこ 絵：CPU

妊娠してからも住職として命蓮寺でその務めを続けていますが、寺のみんなの計らいでいつも日が傾く前には帰宅させてくれる。

帰宅したあと、夕食の準備を済ませ、一息ついていると旦那さまが帰ってきた。

「おかえりなさい。今日も一日お疲れ様でした。」

一日頑張つて働いてきてくださった旦那さまに労いの言葉をかける。すると旦那さまは玄関で履物を脱ぎ私に駆け寄ってきて大きくなったお腹に手を添える。

「だいぶ大きくなったねと旦那さまが優しく私のお腹をさすってくれる。」

「もう7ヶ月目ですよ、順調に育ってるんですからね」

「ちなみにもう、お夕食の準備は出来てますよ。それとも先にお風呂になさいますか？」

旦那さまは腹ペコだと訴えてきたので早速夕食にすることに。

「あまりガツガツ食べるとノドにつまっちゃいますよ」

そう言いつつも、私の手料理をおいしそうに食べてくださる旦那さまを見て嬉しくなる。

「あ、お風呂、沸いてますよ」

夕食も終わり一息ついたあとは、旦那さまがお風呂に向かった。それに気付いた私は洗いものを手早く済ませたあとすぐに浴室へ向かう。そして脱衣所にはいると着ていた服をすべて脱いで裸になり、浴室に入る。

「今日もお勤めありがとうございます…がんばってください旦那さまのために今日もお背中お流しますね」

すると旦那さまが私の方を見て照れるように微笑んでくれた。

毎日の旦那さまのお勤めを労うため、旦那さまの身体を流してあげる。誰が言い出した訳でもなく結婚前から行っていた習慣だけど今でもこうやって止める事なく続けている。

毎日一緒にお風呂に入っているけど旦那さまに裸を見られるのはやっぱり恥ずかしい。妊娠7ヶ月になり母乳を出すためにさらに大きくなったおっぱいと、ぽっこりしたお腹で恥ずかしさも割り増しなのだけど、旦那さまはそんな私すら愛おしいと言ってくくださる。

腰掛けに座った大きな背中にお湯をかけ洗い流し、泡立たせたスポンジで全身をくまなくこすっていく。

「はい、じゃあ次は腋の下洗いますねえ、バンザイしてください」

最初は恥ずかしがってた旦那さまだけど、今では私の言う通りにして体を預けてくれる。「んっ…あんっ…」

妊娠しているものでどうしようもないのだけど、身体の前を洗う時は乳首やお腹が背中にあたってしまう。乳腺が張っている状態なので少し振れただけでも感じてしまう。「んっ…痒いところはありますかあ？」

散髪屋のまね事をして誤魔化そうとしてみたものの、意味のないことだと瞬時に自覚してしまう。なぜなら旦那さまは私が敏感になっている事を知っているからだ。

そして裸でスキンシップをしていると、いつものように旦那さまに異変が見られる。

「おちんぼ勃起させちゃって…妊婦さん相手にこんなに興奮するなんてイケナイ旦那さま」泡だったスポンジをそつと股間に回し、おっぱいもぐにゆうつと押し当てる。

旦那さまはおちんぼをどさらに硬くさせながら抵抗するかのようにつぶやく。

「え？私の身体がすごくいやらしい…から？」

「どうやら私おおきく張ったおっぱいとのおおきなお腹に興奮してこうなったようだ。」

「まさか妊婦の私に欲情するなんて…旦那さまの性欲は本当に底知れないですね」

ムクムクといきり立ったおちんぼをスポンジでギュッと包み優しくこすっていく。

スポンジの感触がこそばゆいのか、身をくねらせる旦那さま。それでも構わずシュツシュツとこすり合わせていると観念したのか旦那さまがお願いをしてきた。

「手でしてほしいんですか？もう…仕方ない人ですね」

「じゃあ後ろからじゃちゃんと洗えませんか、はい、前を向いてくださいね」

くるりと旦那さまを前を向かせ、泡だった私の手では包み込めないほど大きなおちんぼを指先で優しく刺激する。最初はサオの部分、そしてだんだんとカリ首を。両手で優しく包み愛おしく上下に擦る。じゅぶじゅぶつとした泡だった音をたてている。

「気持ちいい…ですか？ ふふっ…ビクビクしてしてますよ」

旦那さまの身体がビクッビクッと股間を起点にして震え出す。旦那さまの気持ちのいいポイントは私は十分知り尽くしている。

旦那さまのおちんぼの灼けつくような体温が手から伝わってくるのを感じながら何度も丁寧に睾丸の裏からスジの方まで洗う。旦那さまの表情はもうお風呂ではなく完全に快楽に身を任せたオスの顔をしている。

「しゅっしゅっしゅっ…ぐちゅっぐちゅっぐちゅっ…」

更に硬さを増していくおちんぼからは石鹸の泡とは明らかに違う粘質の液体が分泌されてきた所で私はニコッと笑顔で旦那さまに次の段階へ進む事を告げる。

「もう…せっかく洗っているのにおちんぼからとんとんあおつゆがあふれてきますよ…ほら、手がこんなにネチヨネチヨになっちゃいましたよ」



ガチガチになったおちんぼから手を離すと亀頭から中指に一筋の糸が引く。これだけで十分達してしまいそうな旦那さまのおちんぼを唇に手を当てながら告げる。

「次はお口で、気持ち良くしてあげます…ね」

そう言っつて旦那さまを椅子に座らせる。私もお腹に負担にならないようにそつと屈み、おちんぼにそつと唇を伸ばしていく。

「んっ…あ…んむっ」

口いっぱいを開け舌を絡ませながら少しずつ頬張っていく。

「びちゃっ…じゅる…ぐぐっ…」

舌先を絡ませ口の中に含んだ亀頭をレロレロと丹念に舐め回す。

「じゅるっ…大きい…このおちんぼで何度、愛してくださったのですよね…んぐっ…じゅる」

旦那さまを見上げながら私は口をすぼませつとおちんぼを吸い上げる。

旦那さまは気持ちよさからビクンビクンと腰を震わせ、感じている事がわかる。

「ふふふっ…こうされるのが好きなんでふよねえ、ぜんぶ、わかってるんですからね」

裏筋をペるペると舌先で舐めあげる。裏筋の真ん中あたりが旦那さまの弱点なのだ。

続けて亀頭、鈴口を唇で包みながら口の中で更に舌先で舐め回すと旦那さまから快楽を我慢する声が聞こえてくる。

「ふふっ…我慢しなくても…あんむっ…んっ…いいんですよ…じゅるるるっ」

おちんぼに口づけをし亀頭から滲み出てきた粘液をすすりながら旦那さまに微笑みながら言葉かける。旦那さまの射精が近い事は感覚でもうわかってきている。

「ふあっ…」

おちんぼから口を離すとニチャッと音がし粘液の糸が唇とおちんぼをつたう。私の唾液と混ざり合っつてベトベトになったおちんぼを音を立てながら手でこすりたてる。

旦那さまのおちんぼが小刻みに震えだしてきた、いよいよ射精が近くなってきた。

すると旦那さまから珍しくお願いがあると提案してきた。口に出させて欲しいらしい。

「ふふっいいですよ…私のお口の中でいっぱい出してくださいね」

再び口を大きく開けて、ますます大きくなった旦那さまのおちんぼを思い切り頬張る。

「んぐっ…じゅぶっ…じゅぽっ…じゅぽっ…じゅるるるるっ」

根本まで唾え込み粘液を吸いながら喉奥まで旦那さまのおちんぼを受け入れる。

「ぐぽっじゅっずずずずずるるるるっ」

私の口の中が焼け付きそうな旦那さまのおちんぼでいっぱいになる。おちんぼでいっぱいになった口の中で蠢かせるように舌を這わせる。その度にビクンビクンとおちんぼが反

イクと同時に私のおまんこは潮を吹き、同時に勢いよく母乳を噴き出してしまふ。

「はあん…あふう…んっ」

快樂の波が落ち着いた頃には風呂場を、そして旦那さまと私を母乳まみれにしていた。すると旦那さまが優しく微笑みながら私にキスをしてくださる。

「んっ…ちゅっ…んちゅっ…ちゅっちゅっ」

甘い刺激と快感が全身を駆け巡り、愛されてる実感、満たされている幸福感で意識が蕩けそうになる。

そうしているうちに旦那さまのおちんぼは一度射精した事など嘘だったかのようにすっかり硬さを取り戻している。びくんびくんとはねるおちんぼを見ながら私は微笑む。

「旦那さまあ…そろそろ…いいですよね？」

旦那さまの前で膝立ちになり、糸を引きながらトロトロおまんこを指でくばあと開きひくつかせたサーモンピンクの淫肉を広げて見せる。

「もう我慢できないんです…今度は私の…下のお口で…おちんぼミルク…飲みたいの…」

目を潤ませ熱い吐息を吐きながら旦那さまに身体を預けると、旦那さまは浴槽に腰掛け優しく受け入れるように私を旦那さまの上に跨がらせてくれる。

向かいあつて座るこの対面座位の姿勢はたくさん旦那さまの愛を感じられる。

旦那さまが私の腰に手を添えてくださったところで、私がおちんぼに手を添え、お腹の重みが負担にならないようにおまんこにあてそのままおちんぼとキスをさせる。

「んっ…それじゃ、入れちゃいますね…はあ…」

そのまま大きなお腹の重みに合わせて少しずつ腰をおろしていく。

「んっ…んんんっ…はあああ…」

おちんぼが柔らかかなおまんこの肉壁に沈み込んでゆく。少しずつおまんこに旦那さまのおちんぼの形が刻まれていくのがわかる。

旦那さまのおちんぼは熱く蠢いて脈打ち、おまんこの中が火傷してしまうんじゃないかと勘違いするほどジンジンと甘い刺激がおまんこから脳髄へと駆け巡ってくる。

「うっ…ふっ…んっ…」

おちんぼが根本まで入り、赤ちゃんの部屋の扉、子宮口を小突く。

「ふわっ…ああ…当たって…旦那さまのおちんぼが私の奥まで当たってるう…んっ」

奥までおちんぼを飲み込んだ快感で全身がビクンビクンと震える。すると、旦那さまの顔の目の前におっぱいがあるせいか、旦那さまが私のおっぱいにしゃぶりついてきた。

「くっちゅるるるるるるるっ」

「くひっ！旦那さまっ！い…今吸われたらいつ…いつちやいます！んんあああああっ！」

先ほどの絶頂に加え、挿入の快感で全身が性感帯になっていた私はまたイッてしまった。噴き出した母乳を今度は旦那さまがお口で吸い続けている。

「あっあっあっ…んいっくうううううっ…はっ…あっ…あっ…あん…」

「もうっ…ズルいです…繋がっている時にでおっぱいを吸われるの…弱いのに」

私はほっぺたを膨らませつつ旦那さまにスネた様子で抗議の態度をみせる。もちろん、本気で抗議している訳ではない。

「じゃあ今度は私が旦那さまにお返しをする番ですからね！」

そう言う私は少し腰を浮かせ、おちんぼを半分ほど引きぬいた後、腰を一気に落とす。

「ぶちゅん！」

旦那さまが突然の快樂に驚きながらも私の体とお腹の赤ちゃんを心配して下さる。

「大丈夫ですよ、子宮内に魔法防壁で守ってますからね」

「にゅちゅっじゅっぐちゅっぐちゅっ…」

腰を上下に動かし旦那さまのおちんぼをおまんこで擦り上げる。その度に肉壁がめくれ上がり、そしておちんぼがかき分けてトロトロのおまんこの奥まで沈み込んでゆく。

「んっ…どうですかあ…？私のおまんこの中は気持ちっ…いいですか…？」

旦那さまが天を仰ぐように顔を上げ、気持ちよさそうな表情を見せてくれる。そんな顔を見せられると私のおまんこがきゅっつと収縮し、旦那さまのおちんぼをきつく締め付ける。

「ふふふ…私もすっごく気持ちいいですよお…旦那さま」

そう耳元で囁き、旦那さまの背中に両手を回し、優しく抱きしめキスをする。

「んちゅっ…ちゅっ…んっ…旦那さまのおちんぼ、どんどん大きくなっていきますよ」

私が耳元で囁くと今度は旦那さまが私の耳元で囁いてくる。

「えっ？…ええ、お腹の子はどんな弾幕も防ぐ超特別級の魔法防壁を…」

「どっちゅん！」

「んひいっ」

突如旦那さまが腰を浮かせ、私のおまんこを突き上げてくる。

「だっ旦那さっ…まっ…あんっ待って…だ…んっんっあああああっ！」

おっぱいがふるんふるんと激しく揺れ、旦那さまが私を突き上げる度に私の甘い声が漏れる。おまんこからはトロトロの愛液が泉のように溢れ出てくる。

「にゅるん…じゅふっじゅふっじゅふっじゅふっじゅふん！」

旦那さまのおちんぼが的確におまんこの中、子宮の入り口を突いてくる。

「んっんっんっ…おちんぼがっ…私の奥にっ…はあっ…ゴッゴッって当たってくるうっ！」

腰を動かしながら張り付くように抱き合いお互いの身体を貪りあう。



「あっ！あん！あっあっ…旦那さまあ…旦那さまあ…！」

旦那さまのおちんぼが私のおまんこを突く度に愛液がいやらしく泡立ち、おまんこがきゅんきゅんつと締まり、おっぱいからは母乳がびゅるっびゅるつと飛び出てくる。溢れ出る母乳に旦那さまが再びむしゃぶりつく。

快楽に抗えず次第に子種を求めるように自分でも腰を動かしてしまおう。

「ぬちゅっじゅぷっじゅぷっ」

おちんぼの先で赤ちゃんの部屋、子宮口を小突かれる度に息が荒くなり快感が昂っていく。

「あんっ…旦那さまの震えてる…射精そうなんですね…んっ…いいですよっ…私の中にい…」

旦那さまの熱い子種をいっぱいびゅーっびゅーっしてくださいますっ…！」

旦那さまの腰の動きが徐々に早くなってくる。——射精が近い。

旦那さまが腰を引き、一瞬溜めた後に一気に私のおまんこを貫く。奥まで到達したおちんぼはおまんこの中で一瞬、震え——。

「どびゅっ！びゅるるるるるるるっ！」

「あっあっあっ…ひあっ…んっ…イクっ…イっちゃううううっ！」

絶頂と同時に旦那さまを抱きしめ、脚を旦那さまの腰に回しガツシリと固定する。

快感で足の指先がピーンと反る。

「出てるう…あっ…くううん…旦那さまの…熱い子種が私の中にたくさん出てるう…」

旦那さまの射精はまだ止まらない。私のおまんこ中で何度もうねり、おまんこの中を熱い精子で満たしていく。ピクンピクンと肢体を震わせお腹の中が満たされていく暖かさを感じながら余韻に浸る。

「あふっ…お腹の中いっぱい広がって…すごい…気持ちいいです…旦那さまあ…」

繋がったまま温もりを感じながらぎゅっつと抱きしめる。そしてもう一度キスをした。

「大好きです、旦那さま…」

「でもこんなエッチな事するのは…旦那さまだけなんですから、ね」

そのあと精液や愛液、それに母乳まみれになったお風呂をきれいにしてから、お風呂からあがって、そろそろ就寝時間。旦那さまと一緒に布団に入ると、旦那さまは私のお腹をさすりながら私にやさしくしてくれる。

「ねえ旦那さま？赤ちゃんの名前ってそろそろ考えてたりしてますか？」

私がそう言うと旦那さまは頷いた。

「え？もう3人目まで考えているんですか？もうせつかちさんですね旦那さまは」

「でも…うれしい…私もがんばりますからこれからもいっぱい子作りしてくださいね」(終)

表紙イラスト

下着を脱ぎ捨てて誘惑する妊婦白蓮です
エロさと一緒に可愛さを詰め込みました。



旦那さまの子を妊娠しても
ときどき夫婦性交はなされ

ねえ旦那さま……二回目が
もっとほしいなっ……

だから…夜は手作りするわっ
エッチっ…っ…

白濁は……
……

してっ♡

まだ産む前なのにもう二人目の
赤ちゃんが欲しくなってきました

……
……

……
……

おちんちんも
大きくなっ……

♡

おまんこも
まだ大きくなっ……

♡

ぎゅっ

ズ
ズ



いっせいに胸を撫でた瞬間
回那ナも口を開いた
うんちゅ

ごめん♡

あーっ胸ーあーっ胸ーあーっ胸ー
回那ナも口を開いた
うんちゅ

イッ♡

回那ナも口を開いた

ぽん♡

ちゅっ♡

ぽん♡

ちゅっ♡

ちゅっ♡

ちゅっ♡

あん♡

ちゅっ♡



ふっっっっっっっっっっっっっ
白濁はダメかかたっ

おだおだおだおだおだおだ
おだおだおだおだおだおだ

おだおだおだおだおだおだ
おだおだおだおだおだおだ

はあ♡

回那ナも♡

大好き♡

はあ♡

おだおだおだおだおだおだ
またやりましたっね



R-18 作品

colophon 奥付

2014.05.11(博麗神社例大祭11)
Published by HEXIVISION(CPU)

[web] <http://arofreex.net/>
[mail] cpu@arofreex.net
[pixiv] id=9206
[twitter] CPU_arofreex

Printed by イロドリ

Original: 上海アリス幻楽団 (ZUN)

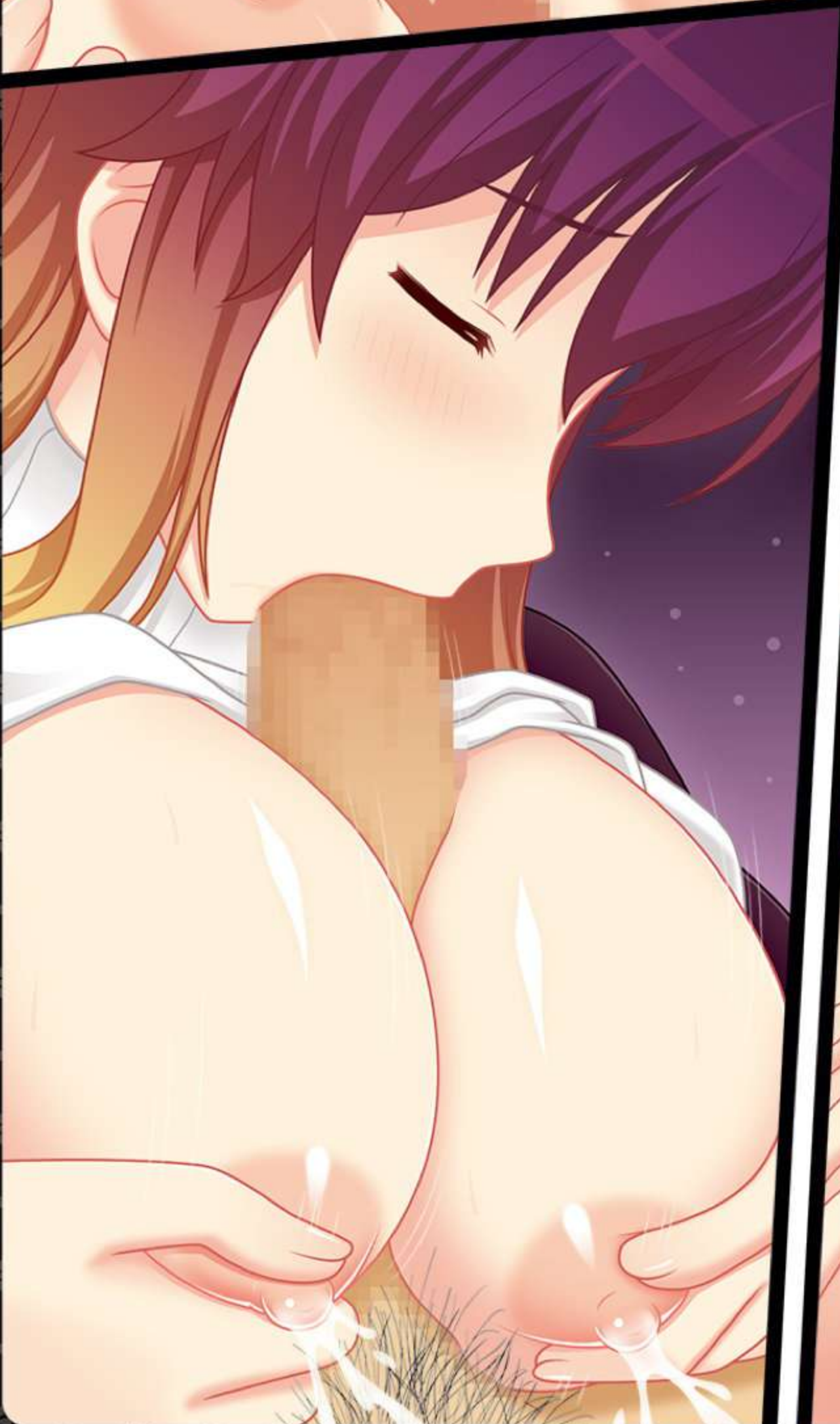
本誌は上海アリス幻楽団・ZUN氏の作品「東方Project」を題材とした二次創作物です。
許可なく無断複製・転写・転載・改変・ネットワーク上へのアップロード行為ならびに営利目的とした貸与・コピー行為を禁止します。

QRコード読込で
twitterのCPUの
アカウントに
アクセスできます



HEXIVISION





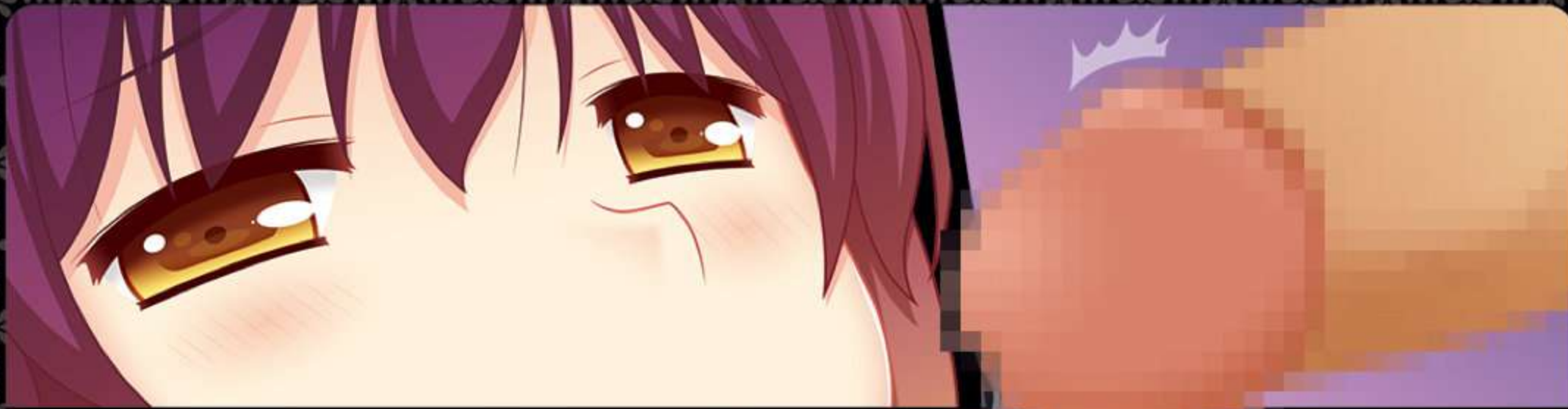


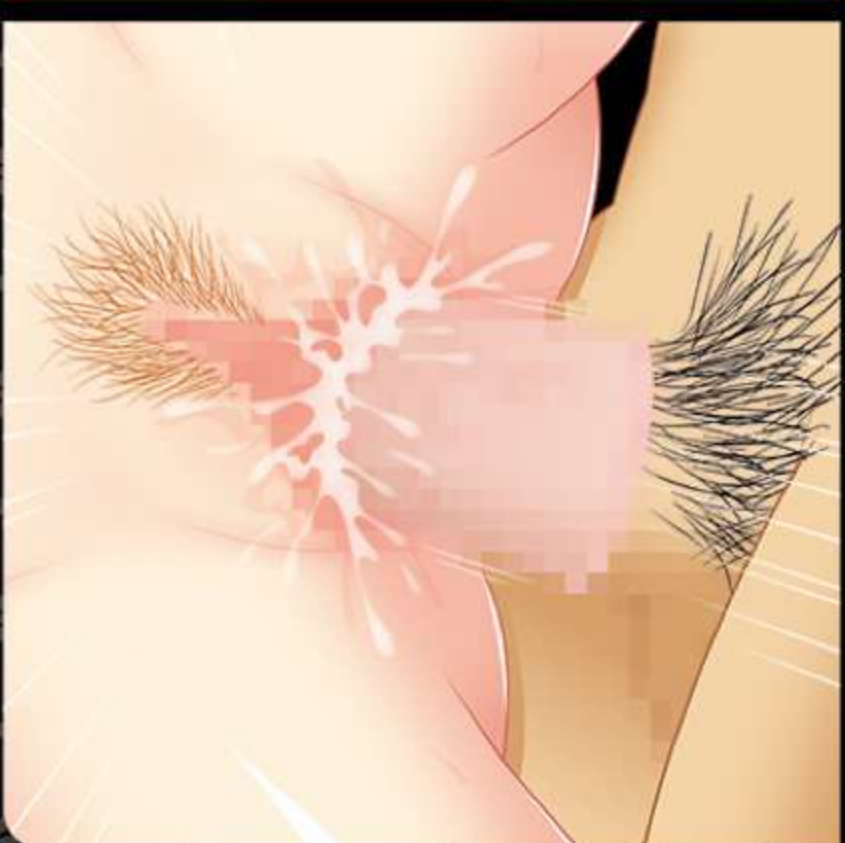
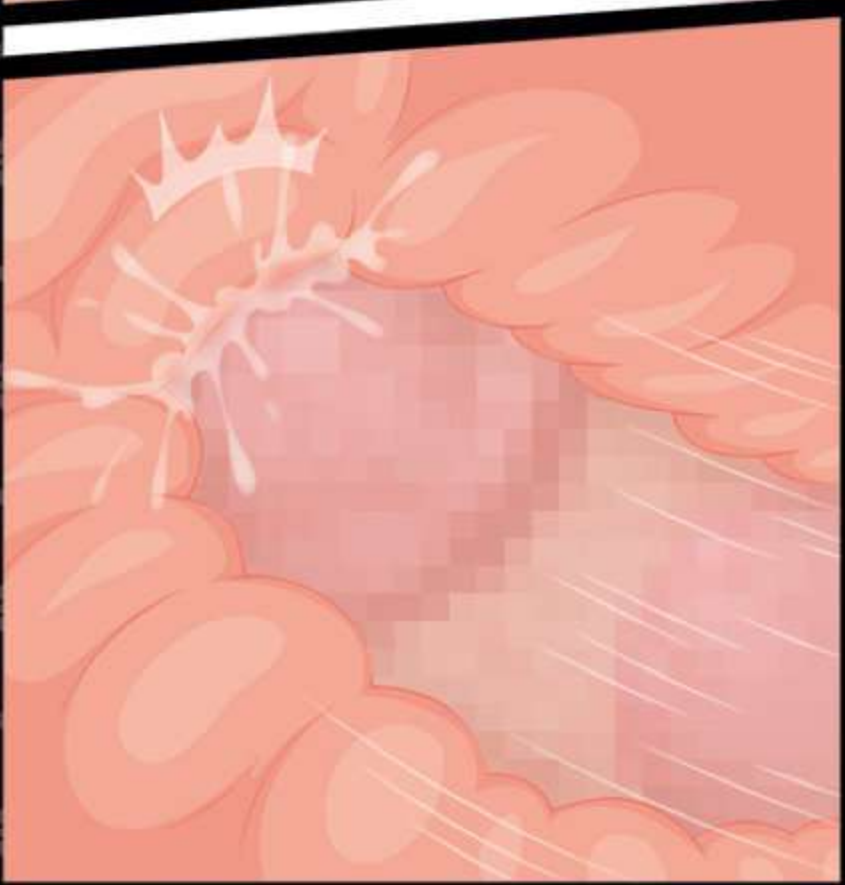






























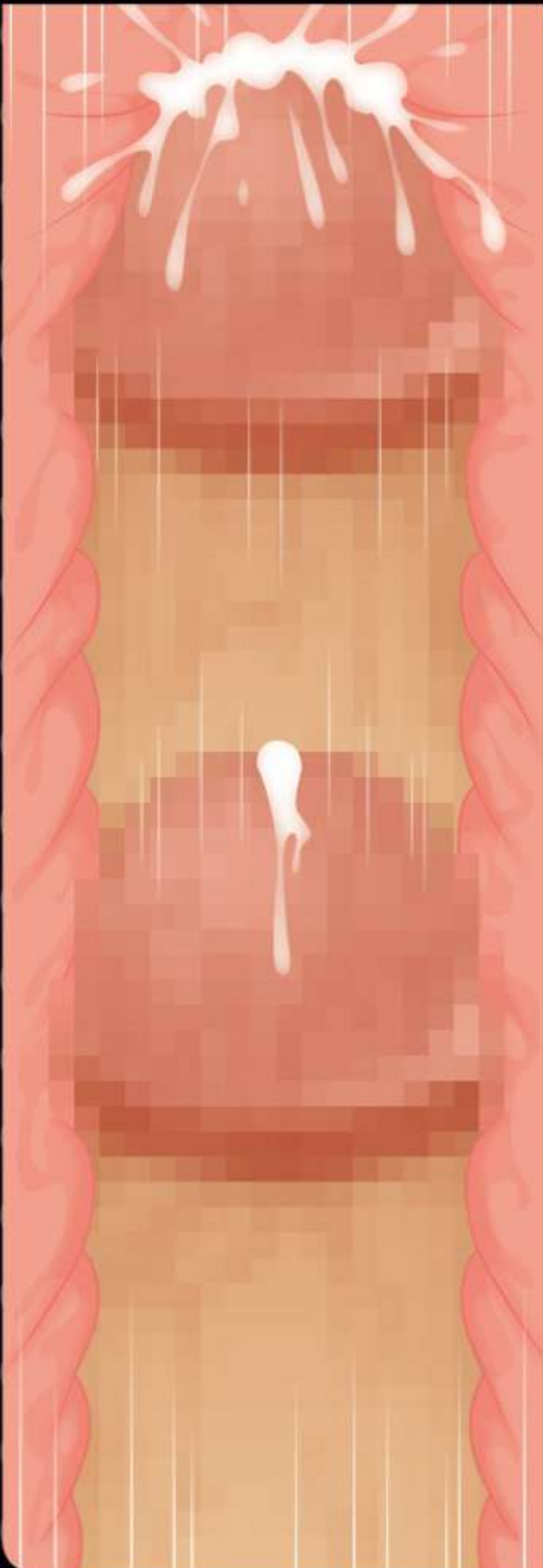
もしも妊婦になった聖白蓮がすごく
あなたを欲しがってしまったら：♡















聖白蓮との妊娠ラブライフ

文：きなこ 絵：CPU

妊娠してからも住職として命蓮寺でその務めを続けていますが、寺のみんなの計らいでいつも日が傾く前には帰宅させてくれる。

帰宅したあと、夕食の準備を済ませ、一息ついていると旦那さまが帰ってきた。

「おかえりなさい。今日も一日お疲れ様でした。」

一日頑張つて働いてきてくださった旦那さまに労いの言葉をかける。すると旦那さまは玄関で履物を脱ぎ私に駆け寄ってきて大きくなったお腹に手を添える。

だいぶ大きくなったねと旦那さまが優しく私のお腹をさすってくれる。

「もう7ヶ月目ですよ、順調に育ってるんですからね」

「ちなみにもう、お夕食の準備は出来てますよ。それとも先にお風呂になさいますか？」

旦那さまは腹ペコだと訴えてきたので早速夕食にすることに。

「あまりガツガツ食べるとノドにつまっちゃいますよ」

そう言いつつも、私の手料理をおいしそうに食べてくださる旦那さまを見て嬉しくなる。

「あ、お風呂、沸いてますよ」

夕食も終わり一息ついたあとは、旦那さまがお風呂に向かった。それに気付いた私は洗いものを手早く済ませたあとすぐに浴室へ向かう。そして脱衣所にはいると着ていた服をすべて脱いで裸になり、浴室に入る。

「今日もお勤めありがとうございます…がんばってください旦那さまのために今日もお背中お流しますね」

すると旦那さまが私の方を見て照れるように微笑んでくれた。

毎日の旦那さまのお勤めを労うため、旦那さまの身体を流してあげる。誰が言い出した訳でもなく結婚前から行っていた習慣だけど今でもこうやって止める事なく続けている。

毎日一緒にお風呂に入っているけど旦那さまに裸を見られるのはやっぱり恥ずかしい。妊娠7ヶ月になり母乳を出すためにさらに大きくなったおっぱいと、ぽっこりしたお腹で恥ずかしさも割り増しなのだけど、旦那さまはそんな私すら愛おしいと言ってください。

腰掛けに座った大きな背中にお湯をかけ洗い流し、泡立たせたスポンジで全身をくまなくこすっていく。

「はい、じゃあ次は腋の下洗いますねえ、バンザイしてください」

最初は恥ずかしがってた旦那さまだけど、今では私の言う通りにして体を預けてくれる。「んっ…あんっ…」

妊娠しているものでどうしようもないのだけど、身体の前を洗う時は乳首やお腹が背中にあたってしまう。乳腺が張っている状態なので少し振れただけでも感じてしまう。「んっ…痒いところはありますかあ？」

散髪屋のまね事をして誤魔化そうとしてみたものの、意味のないことだと瞬時に自覚してしまう。なぜなら旦那さまは私が敏感になっている事を知っているからだ。

そして裸でスキンシップをしていると、いつものように旦那さまに異変が見られる。

「おちんぼ勃起させちゃって…妊婦さん相手にこんなに興奮するなんてイケナイ旦那さま」泡だったスポンジをそつと股間に回し、おっぱいもぐにゆうつと押し当てる。

旦那さまはおちんぼをどさらに硬くさせながら抵抗するかのようにつぶやく。

「え？私の身体がすごくいやらしい…から？」

どうやら私おおきく張ったおっぱいとおおきなお腹に興奮してこうなったようだ。

「まさか妊婦の私に欲情するなんて…旦那さまの性欲は本当に底知れないですね」

ムクムクといきり立ったおちんぼをスポンジでギュッと包み優しくこすっていく。

スポンジの感触がこそばゆいのか、身をくねらせる旦那さま。それでも構わずシュツシュツとこすり合わせていると観念したのか旦那さまがお願いをしてきた。

「手でしてほしいんですか？もう…仕方ない人ですね」

「じゃあ後ろからじゃちゃんと洗えませんか、はい、前を向いてくださいね」

くるりと旦那さまを前を向かせ、泡だった私の手では包み込めないほど大きなおちんぼを指先で優しく刺激する。最初はサオの部分、そしてだんだんとカリ首を。両手で優しく包み愛おしく上下に擦る。じゅぶじゅぶつとした泡だった音をたてている。

「気持ちいい…ですか？ ふふっ…ビクビクしてしてますよ」

旦那さまの身体がビクッビクッと股間を起点にして震え出す。旦那さまの気持ちのいいポイントは私は十分知り尽くしている。

旦那さまのおちんぼの灼けつくような体温が手から伝わってくるのを感じながら何度も丁寧に睾丸の裏からスジの方まで洗う。旦那さまの表情はもうお風呂ではなく完全に快楽に身を任せたオスの顔をしている。

「しゅっしゅっしゅっ…ぐちゅっぐちゅっぐちゅっ…」

更に硬さを増していくおちんぼからは石鹸の泡とは明らかに違う粘質の液体が分泌されてきた所で私はニコツと笑顔で旦那さまに次の段階へ進む事を告げる。

「もう…せっかく洗っているのにおちんぼからとんとんあおつゆがあふれてきますよ…ほら、手がこんなにネチヨネチヨになっちゃいましたよ」

イクと同時に私のおまんこは潮を吹き、同時に勢いよく母乳を噴き出してしまふ。

「はぁん…あふう…んっ」

快樂の波が落ち着いた頃には風呂場を、そして旦那さまと私を母乳まみれにしていた。すると旦那さまが優しく微笑みながら私にキスをしてくださる。

「んっ…ちゅっ…んちゅっ…ちゅっちゅっ」

甘い刺激と快感が全身を駆け巡り、愛されてる実感、満たされている幸福感で意識が蕩けそうになる。

そうしているうちに旦那さまのおちんぼは一度射精した事など嘘だったかのようにすっかり硬さを取り戻している。びくんびくんとはねるおちんぼを見ながら私は微笑む。

「旦那さまあ…そろそろ…いいですよね？」

旦那さまの前で膝立ちになり、糸を引きながらトロトロおまんこを指でくばあと開きひくつかせたサーモンピンクの淫肉を広げて見せる。

「もう我慢できないんです…今度は私の…下のお口で…おちんぼミルク…飲みたいの…」

目を潤ませ熱い吐息を吐きながら旦那さまに身体を預けると、旦那さまは浴槽に腰掛け優しく受け入れるように私を旦那さまの上に跨がらせてくれる。

向かいあつて座るこの対面座位の姿勢はたくさん旦那さまの愛を感じられる。

旦那さまが私の腰に手を添えてくださったところで、私がおちんぼに手を添え、お腹の重みが負担にならないようにおまんこにあてそのままおちんぼとキスをさせる。

「んっ…それじゃ、入れちゃいますね…はぁ…」

そのまま大きなお腹の重みに合わせて少しずつ腰をおろしていく。

「んっ…んんん…はぁぁぁ…」

おちんぼが柔らかかなおまんこの肉壁に沈み込んでゆく。少しずつおまんこに旦那さまのおちんぼの形が刻まれていくのがわかる。

旦那さまのおちんぼは熱く蠢いて脈打ち、おまんこの中が火傷してしまうんじゃないかと勘違いするほどジンジンと甘い刺激がおまんこから脳髄へと駆け巡ってくる。

「うっ…ふっ…んっ…」

おちんぼが根本まで入り、赤ちゃんの部屋の扉、子宮口を小突く。

「ふわっ…あぁ…当たって…旦那さまのおちんぼが私の奥まで当たってるう…んっ」

奥までおちんぼを飲み込んだ快感で全身がビクンビクンと震える。すると、旦那さまの顔の目の前におっぱいがあるせいか、旦那さまが私のおっぱいにしゃぶりついてきた。

「くっちゅるるるるるるっ」

「くひっ！旦那さまっ！い…今吸われたらいつ…いつちやいます！んんあぁあぁあつっ！」

先ほどの絶頂に加え、挿入の快感で全身が性感帯になっていた私はまたイッてしまった。噴き出した母乳を今度は旦那さまがお口で吸い続けている。

「あつあつあつ…んいっくううううううっ…はっ…あつ…あつ…あん…」

「もうっ…ズルいです…繋がっている時にでおっぱいを吸われるの…弱いのに」

私はほつぺたを膨らませつつ旦那さまにスネた様子で抗議の態度をみせる。もちろん、本気で抗議している訳ではない。

「じゃあ今度は私が旦那さまにお返しをする番ですからね！」

そう言う私は少し腰を浮かせ、おちんぼを半分ほど引きぬいた後、腰を一気に落とす。

「ぶちゅん！」

旦那さまが突然の快樂に驚きながらも私の体とお腹の赤ちゃんを心配して下さる。

「大丈夫ですよ、子宮内に魔法防壁で守ってますからね」

「にゅちゅっじゅっぐちゅっぐちゅっ…」

腰を上下に動かし旦那さまのおちんぼをおまんこで擦り上げる。その度に肉壁がめくれ上がり、そしておちんぼがかき分けてトロトロのおまんこの奥まで沈み込んでゆく。

「んっ…どうですかあ…？私のおまんこの中は気持ちっ…いいですか…？」

旦那さまが天を仰ぐように顔を上げ、気持ちよさそうな表情を見せてくれる。そんな顔を見せられると私のおまんこがきゅうつと収縮し、旦那さまのおちんぼをきつく締め付ける。

「ふふふ…私もすっごく気持ちいいですよお…旦那さま」

そう耳元で囁き、旦那さまの背中に両手を回し、優しく抱きしめキスをする。

「んちゅっ…ちゅっ…んっ…旦那さまのおちんぼ、どんどん大きくなっていきますよ」

私が耳元で囁くと今度は旦那さまが私の耳元で囁いてくる。

「えっ？…ええ、お腹の子はどんな弾幕も防ぐ超特別級の魔法防壁を…」

「どっちゅん！」

「んひっ」

突如旦那さまが腰を浮かせ、私のおまんこを突き上げてくる。

「だっ旦那さつ…まっ…あんっ待ってくだ…んっんっあぁあぁあつっ！」

おっぱいがふるんふるんと激しく揺れ、旦那さまが私を突き上げる度に私の甘い声が漏れる。おまんこからはトロトロの愛液が泉のように溢れ出てくる。

「にゅるん…じゅふっじゅふっじゅふっじゅふっじゅふん！」

旦那さまのおちんぼが的確におまんこの中、子宮の入り口を突いてくる。

「んっんっんっ…おちんぼがっ…私の奥にっ…はあっ…ゴッゴッって当たってくるうっ！」

腰を動かしながら張り付くように抱き合いお互いの身体を貪りあう。



「あっ！あん！あっあっ…旦那さまあ…旦那さまあ…！」

旦那さまのおちんぼが私のおまんこを突く度に愛液がいやらしく泡立ち、おまんこがきゅんきゅんつと締まり、おっぱいからは母乳がびゅるつびゅるつと飛び出てくる。溢れ出る母乳に旦那さまが再びむしゃぶりつく。

快楽に抗えず次第に子種を求めるように自分でも腰を動かしてしまおう。

「ぬちゅっじゅぷっじゅぷっ」

おちんぼの先で赤ちゃんの部屋、子宮口を小突かれる度に息が荒くなり快感が昂っていく。

「あんっ…旦那さまの震えてる…射精そうなんです…んっ…いいですよっ…私の中に…旦那さまの熱い子種をいっぱいびゅーっびゅーしてくださいいいっ…！」

旦那さまの腰の動きが徐々に早くなってくる。——射精が近い。

旦那さまが腰を引き、一瞬溜めた後に一気に私のおまんこを貫く。奥まで到達したおちんぼはおまんこの中で一瞬、震え——。

「どびゅっ！びゅるるるるるるるっ！」

「あっあっあっ…ひあっ…んっ…イクっ…イっちゃううううっ！」

絶頂と同時に旦那さまを抱きしめ、脚を旦那さまの腰に回しガツシリと固定する。快感で足の指先がピーンと反る。

「出てるう…あっ…くううん…旦那さまの…熱い子種が私の中にたくさん出てるう…！」

旦那さまの射精はまだ止まらない。私のおまんこ中で何度もうねり、おまんこの中を熱い精子で満たしていく。ピクンピクンと肢体を震わせお腹の中が満たされていく暖かさを感じながら余韻に浸る。

「あふっ…お腹の中いっぱい広がって…すごい…気持ちいいです…旦那さまあ…！」

繋がったまま温もりを感じながらぎゅっつと抱きしめる。そしてもう一度キスをした。

「大好きです、旦那さま…！」

「でもこんなエッチな事するのは…旦那さまだけなんですから、ね」

そのあと精液や愛液、それに母乳まみれになったお風呂をきれいにしてから、お風呂からあがって、そろそろ就寝時間。旦那さまと一緒に布団に入ると、旦那さまは私のお腹をさすりながら私にやさしくしてくれる。

「ねえ旦那さま？赤ちゃんの名前ってそろそろ考えてたりしてますか？」

私がそう言うと旦那さまは頷いた。

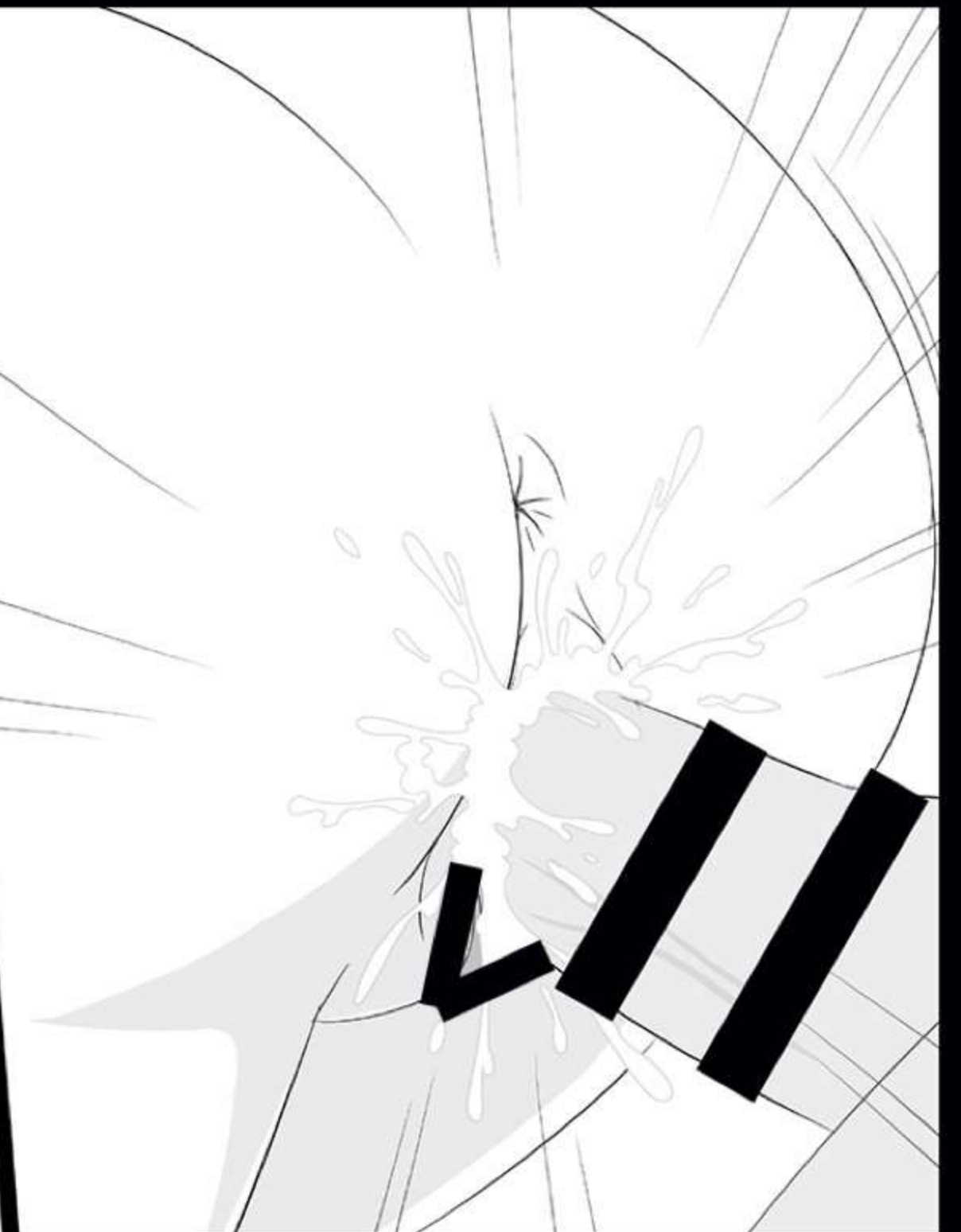
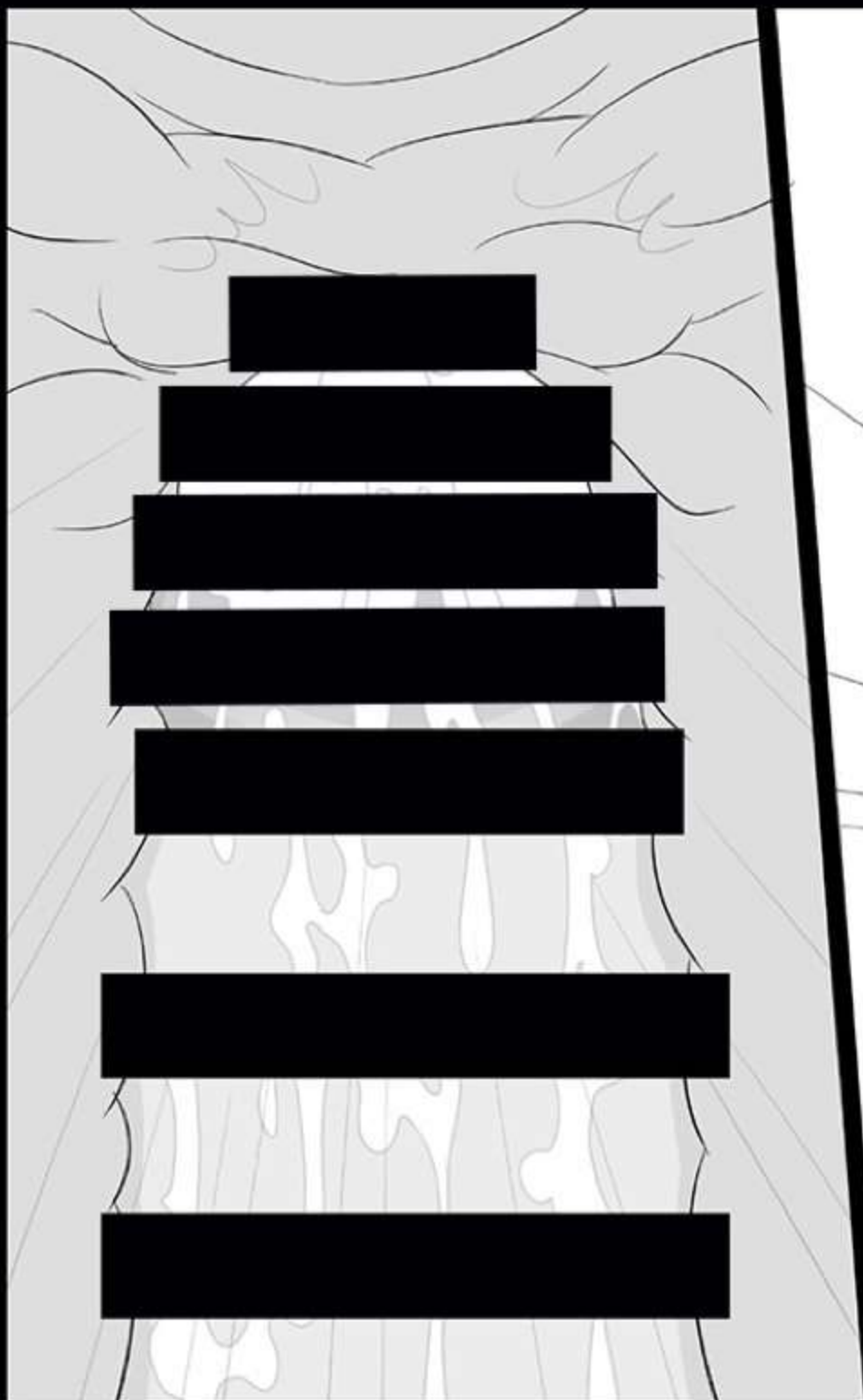
「え？もう3人目まで考えているんですか？もうせつかちさんですね旦那さまは」

「でも…うれしい…私がんばりますからこれからもいっぱい子作りしてくださいね」(終)











シリーズ作品紹介

もしも聖白蓮と常夏無人島で子作り

新婚旅行をすることになったら：♡

昼の部





じゃあ…早速
いただきます

びくびく

あざっ♡



すっごい雄の口…
ああ…美味しげう

はあ♡

はあ♡

はあ♡



白濁のちねで16歳で
いじりたがるかてめや

ぢゅるるる

ちゅる♡

じゅぽ♡

ちゅぶ♡

んっ♡

んっ♡

あんっ…体の芯が熱くて
どんどん濡れてきちゃっ

ロウっぱら21歳オイが
ひろがって興奮しちゃう

んっ♡

んっ♡

あん♡

かたい♡



私ほっかに言持がうめく
なつてちも書失格ですな

回那さま♡

しよっ♡

だからこの度は私の前輪回
おまのこいを痛くしてくださ

あっ♡

はあ♡

ひっ

ひっ

しゅちゅ♡

きゅん♡

でもおかげで子作りの
準備はできみたいです

はあ♡

あっ♡

私がいつにも言持がうめく
しゅちゅおまのこいを痛く

おまのこいを痛くしてくださ
りておまのこいを痛くして



すっ♡

大きい♡

あん…回那さまの…
太くうまく入らない

アモネただけ私に興奮して
くださっている証拠ですよ

よく思つてなると
胸がたがいにちよ

ギョギョ

アッアッアッアッ...

あっ♡

あっ♡

あっ♡

HEXIVISION

ハネムーン ファンタステイカ

HONEY MOON FANTASTICA
TOUHOU PROJECT "RYAKUREN HIJIRI" FANBOOK
PUBLISHED BY HEXIVISION

聖白蓮と無人島で子作り新婚旅行!!!
昼はビーチで、夜はお風呂で孕むまで
発情新妻に徹底種付け

「ハネムーンファンタステイカ」ダウンロード販売中

18
18歳未満閲覧購入不可
FOR ADULT ONLY

ハネムーン
ブライダルマガジン



母乳をだしながら種付け懇願する
どスケベ新妻・白蓮との夫婦生活



18
18歳未満閲覧禁止

フルカラーコミック

♡ ウェディングファンタジー ♡
Wedding Fantasy
Illustration
© 2010 H&K



母乳をだしながら種付け懇願する
どスケベ新妻・白蓮との夫婦生活



FOR ADULT ONLY

フルカラーコミック

HEXIVISION

母乳をだしながら種付け懇願する
どスケベ新妻・白蓮との夫婦生活

フラチナ
FLATINA FANTASTICA
ファンタスティカ



R-18 作品

colophon 奥付

2014.05.11(博麗神社例大祭11)
Published by HEXIVISION(CPU)

[web] <http://arofreex.net/>
[mail] cpu@arofreex.net
[pixiv] id=9206
[twitter] CPU_arofreex

Printed by イロドリ

Original: 上海アリス幻楽団 (ZUN)

本誌は上海アリス幻楽団・ZUN氏の作品「東方Project」を題材とした二次創作物です。
許可なく無断複製・転写・転載・改変・ネットワーク上へのアップロード行為ならびに営利目的とした貸与・コピー行為を禁止します。

QRコード読込で
twitterのCPUの
アカウントに
アクセスできます



HEXIVISION